

2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 3 月 26 日作成)

委員会名	昼光利用計画 WG	主 査 名：鈴木広隆
所属本委員会 (所属運営委員会)	光環境小委員会	委員長名：井上 容子
設 置 期 間	2003 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	<p>昼光は、建築空間へ与える心理的影響や省エネルギーの観点から、積極的に利用されるべきものであるが、昼光による光環境を予測して設計に反映させることは容易ではなかった。また、昼光による視的快適性については不明の部分が多く、居住後に作業者の不満により制御方法の変更が必要となる場合も少なからずあった。本 WG では、昼光利用シミュレーションの普及を図ることと共に、昼光導入オフィスの視環境評価法を実用的に示し、最適な昼光利用法を提案することを目的としている。2004 年度は、ニーズに合った昼光計算システムの開発、計算結果の評価方法の確立を行うとともに、2003 年の活動成果をシンポジウムで報告し、昼光利用の普及を図る。</p>	
委員構成 (委員名(所属))	<p>鈴木広隆(主査、大阪市立大学)、岩田利枝(幹事、東海大学)、上谷芳昭(京都大学)、梅宮典子(大阪市立大学)、大井尚行(九州大学)、北谷幸恵(北海道立寒地住宅都市研究所)、古賀靖子(九州大学)、登石久美子(清水建設)、戸倉三和子(建築研究所)、野口太郎(関西大学)、原直也(関西大学)、三木保弘(国土交通省国土技術政策総合研究所)、望月悦子(東海大学)、山田浩嗣(住友林業)、吉澤望(東京理科大学) 計 15 名</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	<p>昼光利用計画 WG：昼光利用シミュレーションの普及を図ることと共に、昼光導入オフィスの視環境評価法を実用的に示し、最適な昼光利用法を提案すること</p>	
2004 年度予算	90000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	<p>2004 年度は 2 回開催した。</p> <p>(1) 8/9 (6 名)</p> <p>(2) 3/15 (12 名)</p> <p>その他、適宜インターネットを利用して情報交換を行った。</p>
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>昼光利用計画 WG は、傘下のオフィスの昼光利用 SWG 及び昼光シミュレーション SWG の活動成果に関する情報を共有し、両者の活動を連携させることを目的として設置されたものである。このため、メールによる情報交換や、研究発表会の開催・運営が本 WG の実質的な活動となる。平成 16 年 11 月 11 日に開催された昼光シミュレーション公開研究会(主催：九州大学九州大学 21 世紀 COE プログラム「循環型住空間システムの構築」、建築学会光環境小委員会)では、運営の一部を昼光シミュレーション SWG が担当し、両 SWG のメンバーが、昼光シミュレーションに関わるベンチマークテストケースの提案、日本の社会動向と昼光シミュレーションのニーズ、昼光シミュレーションシステムの開発、天空輝度分布モデル、昼光照明制御システムなどについて 5 件の発表を行った。</p>
	委員会 HP アドレス： http://news-sv.ajij.or.jp/kankyo/s3/dup.htm
目標達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係)

	<p>2004 年度は、「(1)ニーズに合った昼光計算システムの開発」、「(2)計算結果の評価方法の確立」、「(3)2003 年の活動成果のシンポジウムにおける報告」を計画していたが、(1)、(2)については、傘下の昼光シミュレーション SWG において実現しており(詳細は、昼光シミュレーション SWG 活動成果報告参照のこと)、(3)については、上述の公開研究会で実施している。特に、(3)の公開研究会は、国内における活動報告という形に止まらず、国際照明委員会で光シミュレーションツールのベンチマークを行うためのテストケースを作成しているグループの責任者と意見交換をすることができ、大変有意義なものであった。以上により、活動計画に示した内容はすべて達成されていると考えられる。</p>
<p>その他評価すべき事項</p>	<p>なし</p>